おわりに

四半世紀の歴史をもつIPR研究は，本書の執筆者一覧表を見ればわかるように，若い世代に引き継がれているが，私を含めた当初の主要メンバーは4名であった。その中で最年長であった大城ジョージ・桜美林大学教授（当時）は，2007年12月11日に，心不全のために満63歳で死去した。このことは，我々のIPR研究にとっては，大きな痛手となった。それは，これまで，国際会議などでの報告では，大城教授に英文のチェックなどを引き受けてもらっていたからである。彼の遺灰は，桜美林学園の共同墓地に埋葬されているが，その一部は，大城教授の故郷であるハワイに現在住んでいる奥様の笑美様が保存している。

2人目は，本書にも執筆している片桐庸夫・群馬県立大学名誉教授である。片桐教授は，2014年3月に，県立大学を65歳で定年退職し，名誉教授となった。その退官記念論文集として本書は企画された。本来であれば，昨年度中の出版を構想していたが，片桐教授の要望で，本年度の出版となった。片桐教授と初めて会った1989年6月26日には，共に専任講師であったが，それ以降，第3番目のメンバーであり，当時は渋沢史料館の学芸員であった五十嵐卓・流通経済大学准教授と共に，研究部会を設置して論文集を出版したり，科学研究費に応募して受領したりして，IPR研究を共同で推し進めてきた。

このように，良き仲間に囲まれながら，調査研究をしていた私ではあるが，定年まで残すところ3年半となり，そろそろ，ラストスパートの時期に来ている。そこで，若い研究者を支援して，IPR研究を進めて行って欲しいと思っているが，その1つが本書の出版である。

本書では，IPRの調査研究活動に参加した主要な9人の人物に関して検討しているが，ハワイ大学を退職して，現在はワシントン州のリタイメント・ハウスで奥様のグロリアさんと共に生活しているポール・フーパー名誉教授が作成したIPRの主要人物一覧表を，本書の付録として添付しているので，今後は，これらの人物に焦点を当てて，研究活動を進めて行きたいと思っている。

山岡　道男

2015年10月10日